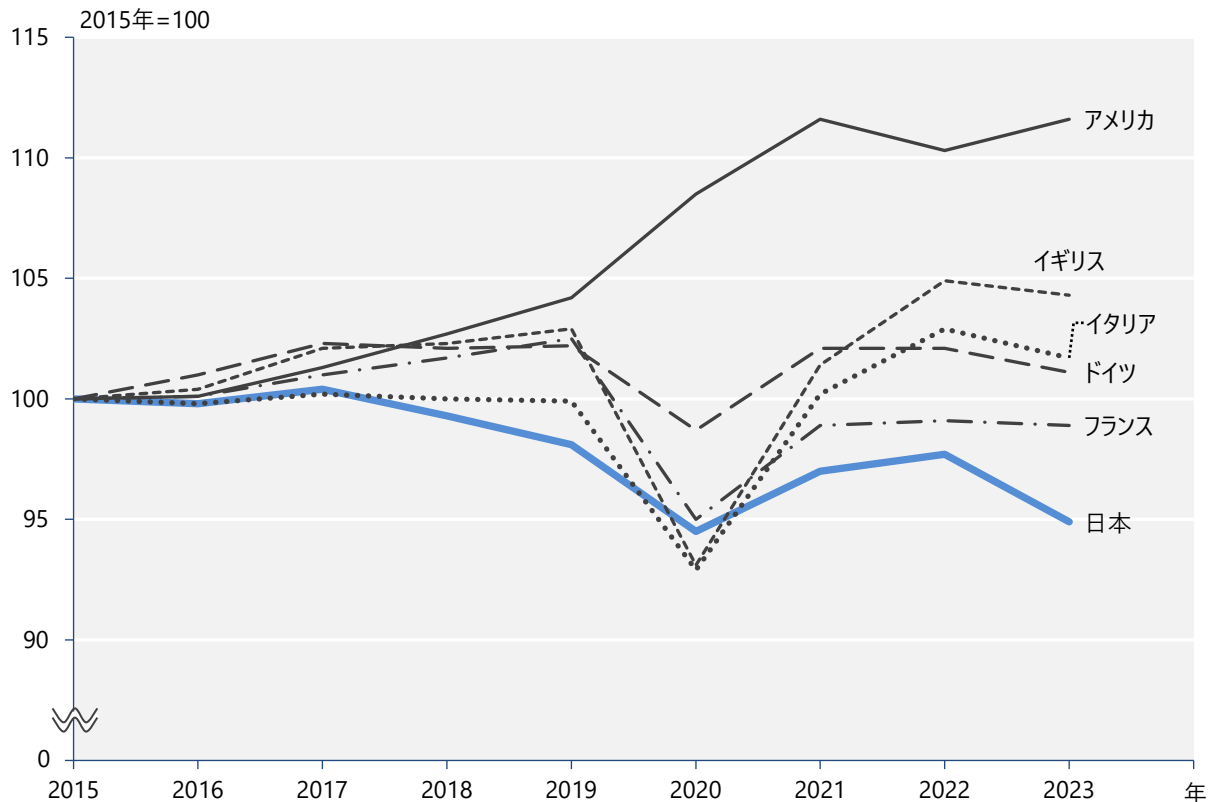


1-3 労働生産性水準



関連表 p.43 「第 1-18-1 表 労働生産性水準（就業者一人当たり GDP）」

上図に示した労働生産性は、就業者一人当たりのGDP（購買力平価で米ドル換算したもの）である。日本の労働生産性をみると、日本は上記6か国中で最も低くなっている。

一般に、労働生産性は、産業構造、就業者一人当たり資本ストック（建物・機械等）、技術水準等に依存する。日本では、一部輸出産業の労働生産性は比較的高水準であるものの、低生産性部門の割合が高いこと等が、相対的な生産性の低さの一因となっている可能性がある。一方で、2007年以降の金融危機や、直近のコロナ禍の時期に、アメリカでは日本や欧州各国と異なり、ほぼ一貫して労働生産性の上昇が見られるが、これには算出の分母となる就業者数の調整スピードの違いによる影響も推測される。

なお、労働生産性の国際比較を行う際には、一国の労働生産性は、GDPを労働投入量で除して算出するが、労働投入量を「労働者数」とするか、「労働者数×労働時間」とするか等によって、その数字の持つ意味は異なったものとなること、サービス業の労働生産性の国際比較においては、サービスの質などは考慮されない点等にも留意する必要がある。